

平成 19 年度
県立体育センター研究報告書

「生涯スポーツ指導者の研修に関する
実態・意識調査」
～生涯スポーツ指導者の指導力向上を図る
研修のあり方について～

(単年度研究)

神奈川県立体育センター
指導研究部生涯スポーツ推進室

目 次

テーマ設定の理由	・・・ 1
目的	・・・ 1
内容及び方法	・・・ 1
結果と考察	
1 アンケート回答者の属性について	・・・ 3
2 スポーツ指導の状況	・・・ 7
3 研修に対する考え	・・・ 10
4 有意義な研修	・・・ 13
5 総合型地域スポーツクラブについて	・・・ 16
まとめ	・・・ 19
今後に向けて	・・・ 20
参考文献	・・・ 21
資料	・・・ 23

生涯スポーツ指導者の研修に関する実態・意識調査

～生涯スポーツ指導者の指導力向上を図る研修のあり方について～

生涯スポーツ推進室 中野 久美子・佐野 朗子・塩浦 健吾・末包 博

【テーマ設定の理由】

現代社会では、科学技術の高度化や情報化社会の進展、急速に進む高齢化等の様々な社会変化に伴い、運動不足による体力の低下や精神的ストレスの増大、加齢に伴う身体機能の変化などの様々な健康問題が顕著になっている。このような状況の中、スポーツは、人生をより豊かに充実したものとすると共に、活力に満ちた社会の形成に大きな役割を担っている。スポーツの持つ多様な可能性を実現するためには、スポーツを提供する側と実践する人々が一体となった取り組みを展開し、一層のスポーツ振興を図る必要がある。

スポーツ環境を整備するため定められた平成12年9月告示の「スポーツ振興基本計画」（平成18年改定）では、課題の1つに生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策があげられている。そのための不可欠な施策として、総合型地域スポーツクラブの育成・支援策の全国展開があり、これを効果的に推進するために、ニーズに対応した質の高いスポーツ指導者の養成・確保が必要とされている。また、地方公共団体の役割として指導者研修の充実を図ることが期待されている。

本県では平成16年度に、神奈川県スポーツ振興指針である「アクティブかながわ・スポーツビジョン」を策定し、生涯スポーツ社会の実現に向けた取り組みを行っているところである。この中で、スポーツ活動を拓げる環境づくりの推進方策として、総合型地域スポーツクラブの育成支援とともに、クラブ運営に携わる様々な人材育成や子どもから高齢者まで、また障害のある人を含む様々な県民のスポーツニーズに対応したスポーツ指導者の育成が求められており、スポーツ指導者の育成・指導力向上に係る研修の重要性が示されている。

本体育センターでは、昭和44年よりスポーツ指導者の指導力向上のために幅広い視点から研修を開催してきた。また、平成14年度より広域スポーツセンターの機能を有する機関として位置づけられてからは、総合型地域スポーツクラブの運営に携わる様々な人材を育成するための研修も行っている。

これらの施策を遂行し、今まで以上に効果的な研修を企画するためには、研修の内容、研修日程や場所の設定、研修会の広報方法等の現状やニーズを分析し、課題を整理する必要がある。

本研究では生涯スポーツ指導者の研修に関する実態・意識を把握し、指導力向上を図る有効な研修のあり方を探ることを、本テーマとして設定した。

【目的】

神奈川県内の生涯スポーツ指導者を対象に、質問紙法によるアンケートを行い、指導の状況・研修受講の実態・研修に対する意識・総合型地域スポーツクラブに関する意識等を調査し、スポーツ指導者の指導力向上のために有効な研修のあり方を探る。

【内容及び方法】

1 研究期間

平成19年4月1日～平成20年3月31日

2 研究の方法

(1) 文献研究

(2) 調査項目等の検討

(3) 資料収集

(4) 質問紙法によるアンケート調査

・調査対象者への直接配付、回収は研修会等での直接回収及びF A Xによる回収とした。

(5) 集計、処理

(6) 結果の分析、考察及び今後の方向性・課題等の検討

3 研究の内容

県のスポーツ指導者団体に所属するスポーツ指導者を対象とした、アンケート調査結果及び分析による研修に対する実態及び意識調査

4 研究の対象

(1) 調査対象者

神奈川県体育協会生涯スポーツ委員会

「神奈川県スポーツ指導者連絡協議会」会員 (1,180名)

神奈川県立体育センター「神奈川県生涯スポーツリーダー養成講習会」修了

「神奈川県生涯スポーツリーダー会」会員 (100名)

(2) 有効回収標本数

有効回収標本数 410サンプル 有効回収率32.0%

【結果と考察】

1 アンケート回答者の属性について

(1) 居住地

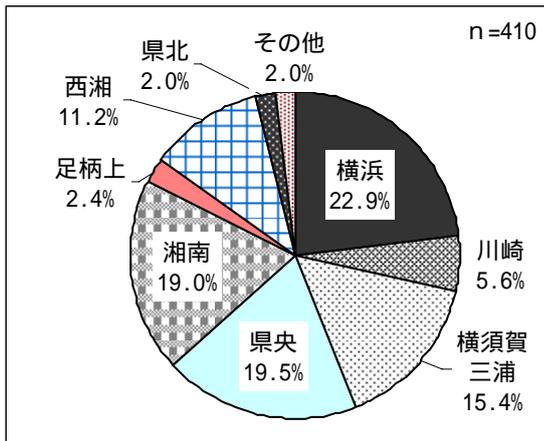


図 1 - 1 居住地

居住地（図 1 - 1）については、全県を行政区分に従い、8つのエリアに分けて居住地をたずねたところ、「横浜地区」が22.9%、「県央地区」が19.5%、「湘南地区」が19.0%、「横須賀三浦地区」が15.4%であった。また、「県北地区」が2.0%、「足柄上地区」が2.4%であった。

(2) 性別

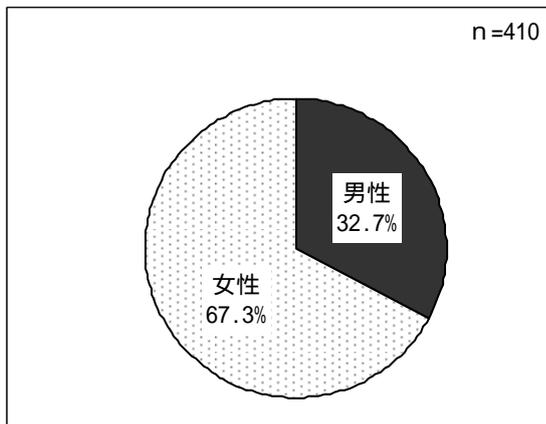


図 1 - 2 性別

性別（図 1 - 2）については、「女性」が67.3%、「男性」が32.7%であった。

(3) 年代

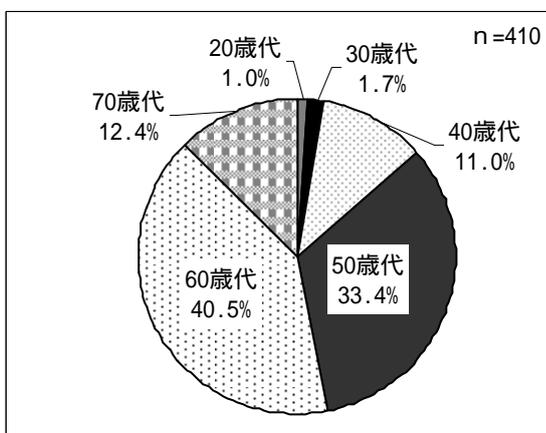


図 1 - 3 年代

年代（図 1 - 3）については、「60歳代」が40.5%、「50歳代」が33.4%であった。また、「20歳代」が1.0%、「30歳代」が1.7%であった。

この結果から、他の回答項目で年代との比較を行うには、偏りが大きいいため、年代を仕事（家事・育児含む）が生活の中心であると思われる「50歳代以下」と、仕事が生生活の中心でないと思われる「60歳代以上」の二つの世代にわけ、「50歳代以下」（193人47.1%）と「60歳代以上」（217人52.9%）の比較を行うことにした。

(4) 保有するスポーツ指導者資格

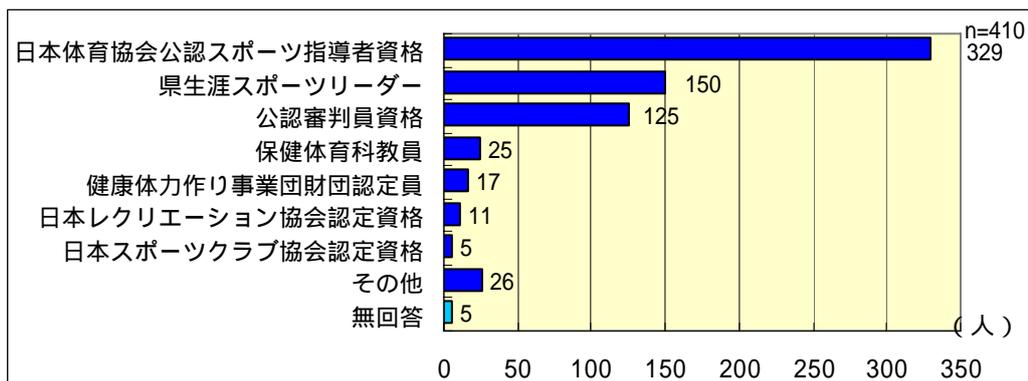


図1 - 4 保有するスポーツ指導者資格 (複数回答可)

保有するスポーツ指導者資格 (図1 - 4) の総数は688であった。一人あたり平均で1.68のスポーツ指導者資格を保有していることがわかる。最も多いのは「日本体育協会公認スポーツ指導者資格」の329であり、「県生涯スポーツリーダー」の150、「公認審判員資格」の125と続いている。

その他には「障害者スポーツ指導者」「国際審判員」「国際気功協会指導員」「Gボール協会指導員」等がある。

(5) 日本体育協会公認スポーツ指導者資格の種類

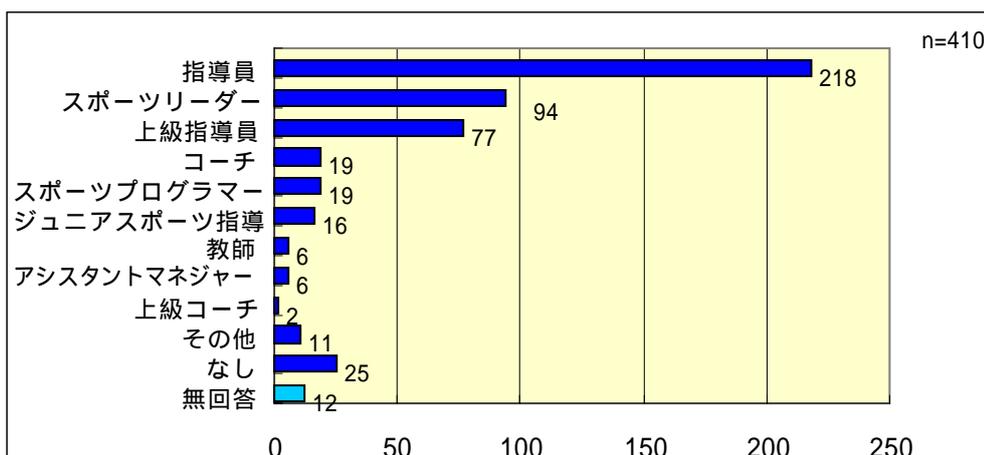


図1 - 5 日本体育協会公認スポーツ指導者資格の種類 (複数回答可)

日本体育協会公認スポーツ指導者資格 (以下、公認スポーツ指導者資格) を保有すると答えた回答者に、その資格の種類について (図1 - 5) 尋ねたところ、総数は468であった。最も多いのは「指導員」で218である。次に「スポーツリーダー」の94、「上級指導員」の77と続いている。

(6) 日本体育協会公認スポーツ指導者資格の種目

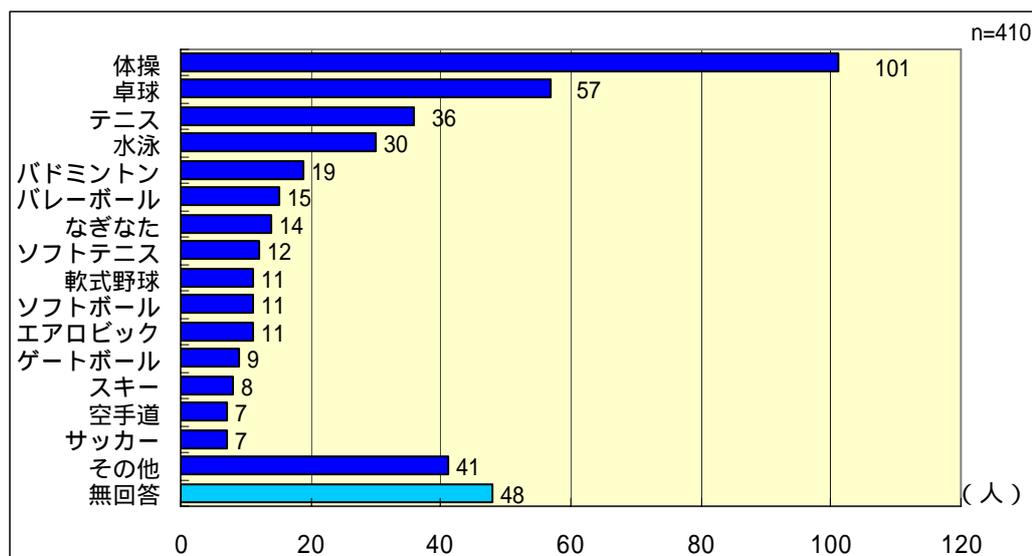


図 1 - 6 日本体育協会公認スポーツ指導者資格の種目 (複数回答可)

公認スポーツ指導者資格の種目 (図 1 - 6) については、「体操」が101と最も多く、次いで「卓球」の57、「テニス」の36、「水泳」の30となっている。個人種目が上位を占めバレーボール等集団種目は少ない傾向であった。その他には、「剣道」「サッカー」「ダンススポーツ」「陸上競技」などがあつた。

(7) 指導している種目

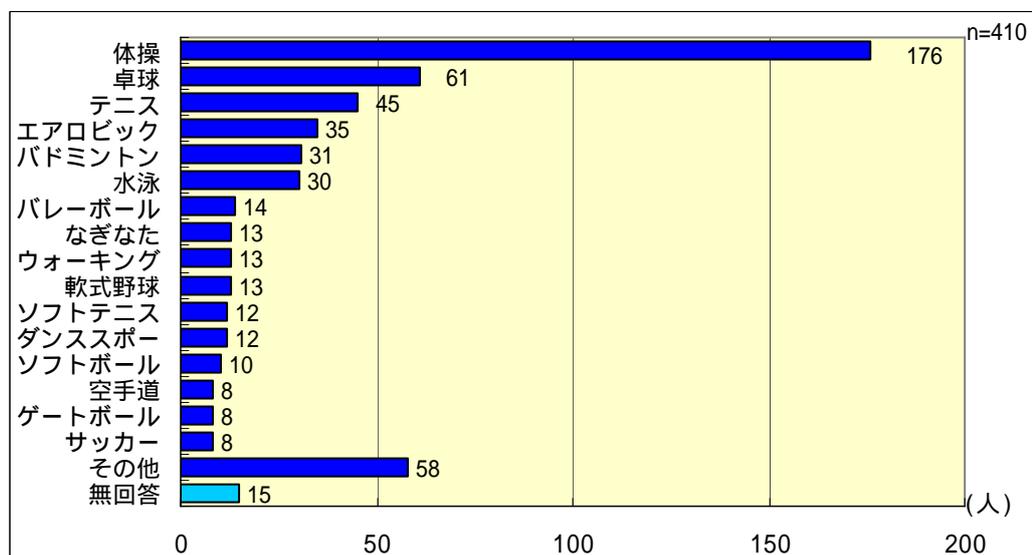
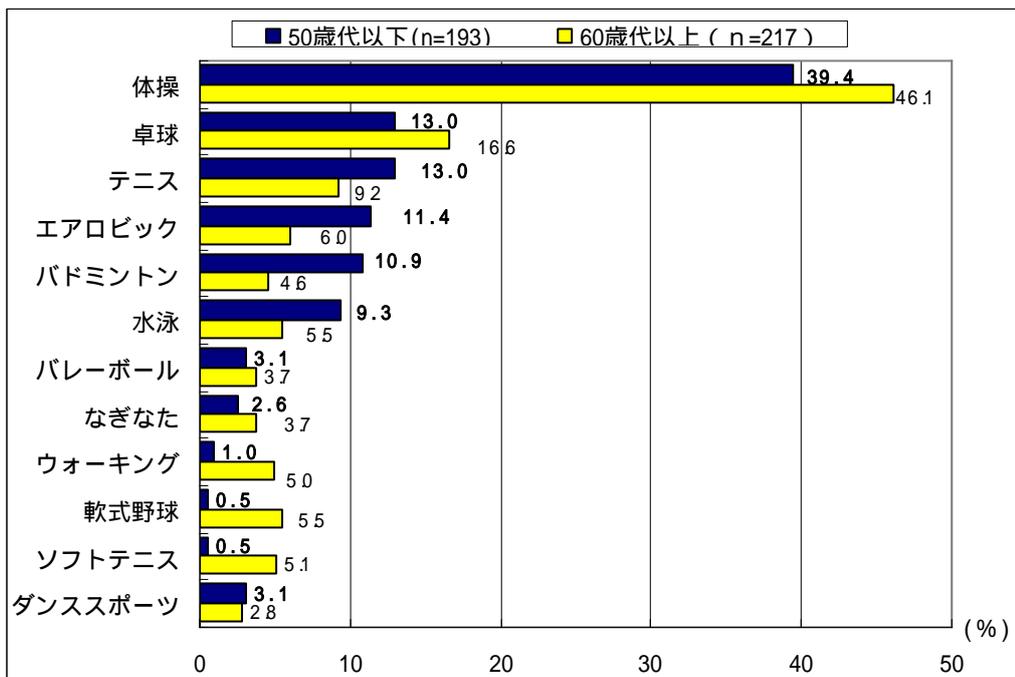


図 1 - 7 指導している種目 (複数回答可)

指導している種目 (図 1 - 7) については、「体操」が176と最も多く、次に「卓球」の61、「テニス」の45、「エアロビック」の35、「バドミントン」の31、「水泳」の30と続いている。



図A 指導している種目の世代比較

指導している種目の世代比較（図A）について、最も多いのは両世代とも「体操」であり、「50歳代以下」が39.4%であり、「60歳代以上」が46.1%であった。これに次いで「卓球」「テニス」「エアロビック」「バドミントン」が続いている。

また、「50歳代以上」の「軟式野球」は0.5%、「ソフトテニス」も0.5%であり、少なかった。

スポーツ指導者資格についてのまとめ

保有するスポーツ指導者資格では、公認スポーツ指導者資格を保有する回答者が最も多かった。また、複数の指導者資格を持っている回答者が多く、その他の資格も様々であった。

公認スポーツ指導者資格の種類では、「指導員」「スポーツリーダー」「上級指導員」が多く、地域のクラブやサークル等において指導している回答者が多いことがわかった。

さらに、公認スポーツ指導者資格の種目と指導している種目を比較したところ、「体操」については、公認スポーツ指導者資格の種目では101であるが、指導している種目の「体操」は176で上回っていることがわかった。このことから、「体操」では、公認スポーツ指導者資格以外の各種団体認定の指導資格を持ち指導している指導者が多数いることがわかる。同様の傾向が「エアロビック」「バドミントン」「テニス」でも見られた。

指導しているスポーツ種目の世代比較では、60歳代以上の回答者の5割近くが体操を指導していることがわかった。また、「テニス」「エアロビクス」「バドミントン」「水泳」といった、比較的運動強度が高いと思われる種目では、50歳代以下が多い傾向であった。

2 スポーツ指導の状況

(1) スポーツ指導の回数

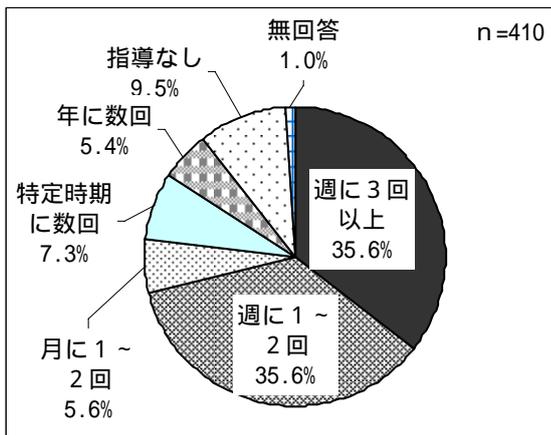


図2 - 1 スポーツ指導の回数

スポーツ指導の回数（図2 - 1）については、「週に3回以上」と「週に1~2回」が各々35.6%であった。

また「月に1~2回」は5.6%、「1年の特定時期に数回指導」は7.3%、「1年の不定期に数回指導」は5.4%であった。

(2) 今後のスポーツ指導の回数

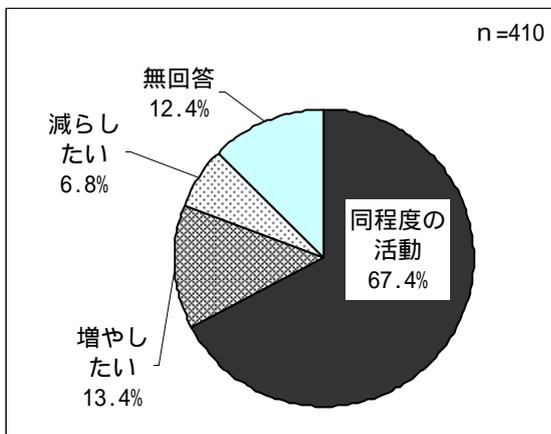


図2 - 2 今後のスポーツ指導の回数

今後のスポーツ指導の回数（図2 - 2）については、「同程度の活動」が67.4%であり、「増やしたい」が13.4%であった。

(3) スポーツ指導の形態

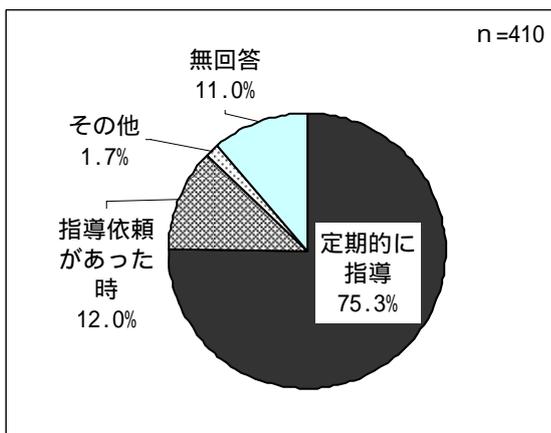
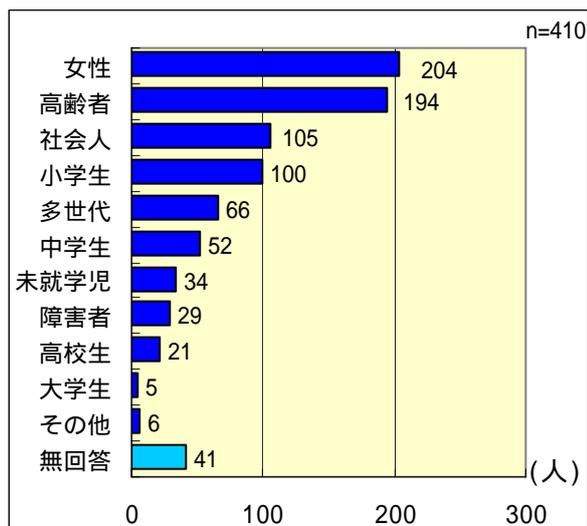


図2 - 3 スポーツ指導の形態

スポーツ指導の形態（図2 - 3）については、「定期的な指導」が75.3%であり、「指導依頼があった時に指導している」が12.0%であった。

(4) スポーツ指導の対象



スポーツ指導の対象（図2 - 4）については、最も多いのは「女性」の204であり、次いで「高齢者」の194、「社会人」の105、「小学生」の100と続いている。

図2 - 4 スポーツ指導の対象
(3つまでの複数回答)

(5) スポーツ指導の内容（教室・サークル等）

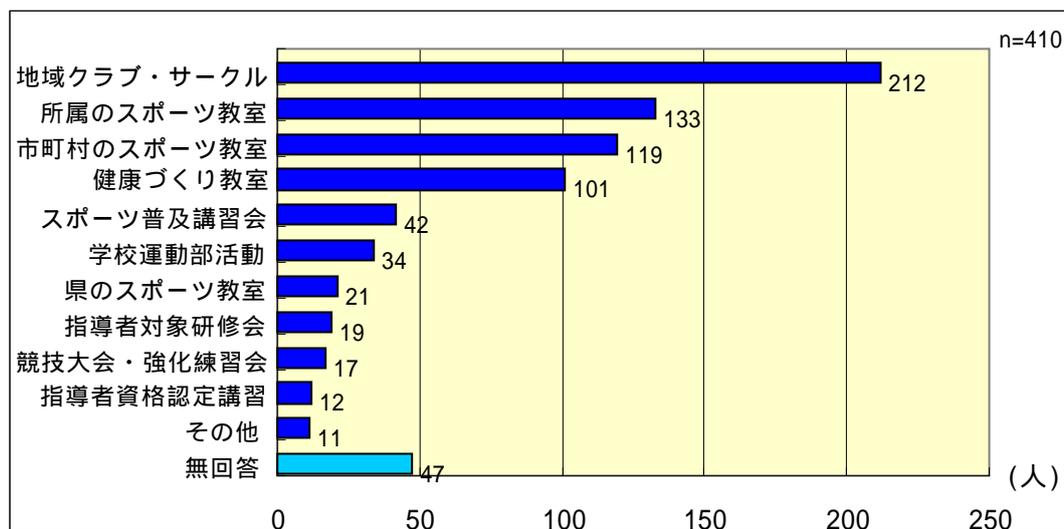


図2 - 5 スポーツ指導の内容（3つまでの複数回答）

スポーツ指導の内容（図2 - 5）については、「地域クラブ・サークル」が212と最も多かった。次いで「所属のスポーツ教室」が133、「市町村のスポーツ教室」が119、「健康づくり教室」が101であり、これに「県のスポーツ教室」の21を加えるとスポーツ教室関係が374であった。

また、「学校運動部活動」が34であり、学校教育との連携もあることがわかった。さらに、「指導者対象研修会」の19、「指導者資格認定講習」の12から、少数ではあるがスポーツ指導者を対象に指導を行う回答者もいた。

(6) スポーツ指導時の利用施設

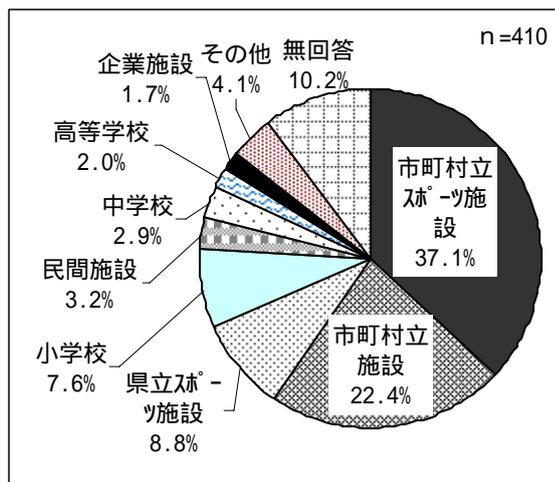


図2-6 スポーツ指導時の利用施設

スポーツ指導時の利用施設(図2-6)については、最も多いのが「市町村立スポーツ施設」の37.1%で、次いで「市町村立施設」の22.4%であり、「県立スポーツ施設」は8.8%であった。学校施設の利用については、「小学校」が7.6%、「中学校」2.9%、「高等学校」2.0%であった。

利用施設の80.8%が公立施設であり、民間施設や企業施設は4.9%であった。今後は余裕のある公立施設(例:学校施設の平日、放課後利用等)や遊休の企業施設等の利用も視野に入れる必要がある。

スポーツ指導の状況についてのまとめ

現在のスポーツ指導の状況は、スポーツ指導の回数については、週1回以上定期的に指導を行っている回答者が、全体の約7割と高い数値であり、さらに「定期的に指導している団体がある」と答えた回答者が7割を超えていることから、スポーツ指導が生活の一部として位置づいている回答者が多いことが分かった。また、通年で指導をしている回答者が全体の約9割あり、ほとんどの回答者がスポーツ現場で活躍していることがわかった。

今後のスポーツ指導の回数では、「指導を増やしたい」と「同程度の活動」と回答した者が全体の約8割になる。これらの結果から、今後もそのほとんどが、指導の回数を維持もしくは増やして行きたいと考えていることがわかった。

また、1週間に定期的に指導している回答者が7割を超えていることと、スポーツ指導の内容でスポーツ教室関係が、地域クラブ・サークルを上回ることから、スポーツ教室の講師としての活動がかなり定期的に行われていると考えられる。

スポーツ指導の対象では「女性」と「高齢者」が際立って多く、回答者属性の約7割の女性の年代が「50歳代」「60歳代」であることから、多くの女性指導者が中高年の女性を指導していることが考えられる。

スポーツ指導時の利用施設では、「市町村立スポーツ施設」と「市町村立施設」の合計が約6割であり、活動が公立施設を中心に行われているが、学校施設の利用が少ないことがわかった。

3 研修に対する考え

(1) 研修の必要性

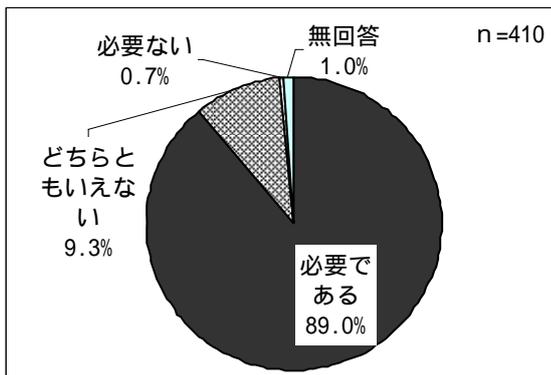


図3 - 1 研修の必要性

研修の必要性(図3 - 1)については、「必要である」が89.0%と大変多かった。

(2) 研修参加の理由

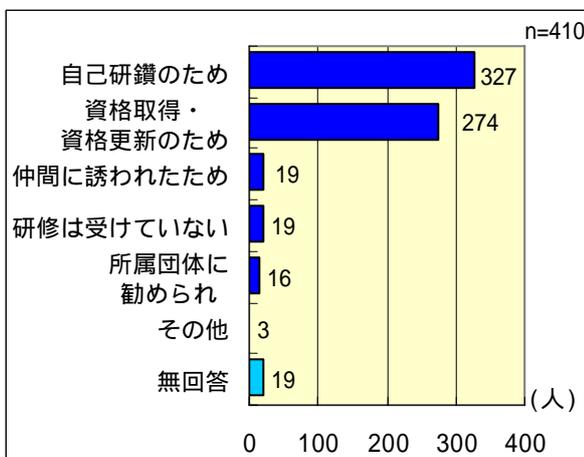


図3 - 2 研修参加の理由
(2つまでの複数回答)

過去3年間に参加した研修会の、研修参加の理由(図3 - 2)については、総数が658であった。「自己研鑽のため」の327が最も多く、次いで「資格取得・資格更新のため」の274であり、この2項目が回答の大部分であった。

なお、「仲間に誘われたため」「所属団体にすすめられて」等の他発的理由は少数であり、回答者は主体的理由で研修に参加していることがわかる。

(3) 研修に参加できない理由

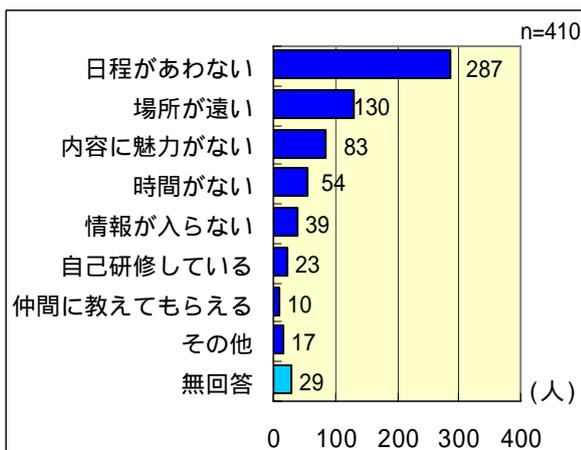


図3 - 3 研修に参加できない理由
(2つまでの複数回答)

研修に参加できない理由(図3 - 3)について総数は643であった。「日程があわない」の287が最も多く、「場所が遠い」の130、「内容に魅力がない」の83が続いている。

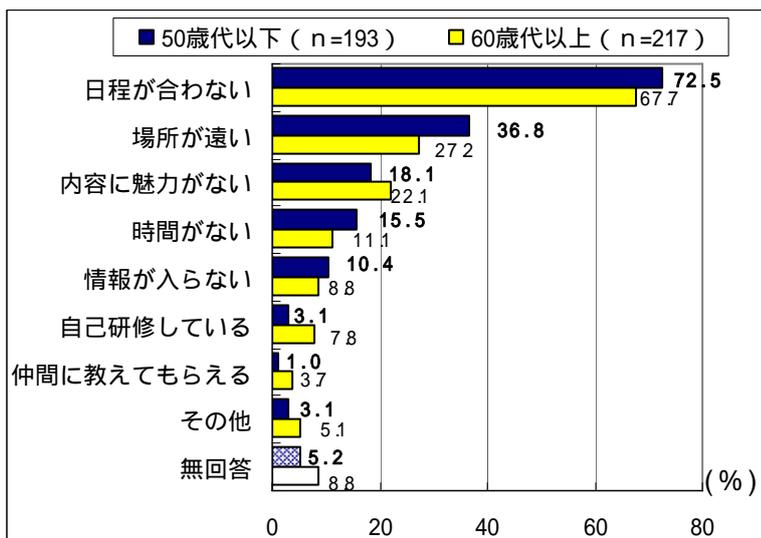


図 B 研修に参加できない理由の世代比較

研修に参加できない理由の世代比較(図B)について、「日程があわない」が「50歳以下」では72.5%、「60歳以上」では67.7%であり、両世代でもっとも多かった。次いで「場所が遠い」「内容に魅力がない」が続いている。

(4) 研修の適当な日程

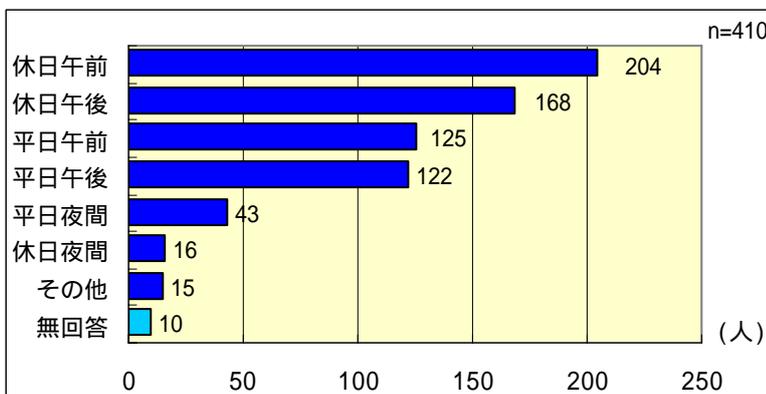


図 3 - 4 研修の適当な日程 (2つまでの複数回答)

研修の適当な日程(図3-4)については、総数が693であった。最も多いのは「休日午前」の204であり、次に「休日午後」が168であった。「平日午前」も125であり、「平日午後」も122とほぼ同様の数値であった。夜間については「平日夜間」の43、「休日夜間」の16と少ないことから、夜間の研修希望は少ないことがわかる。

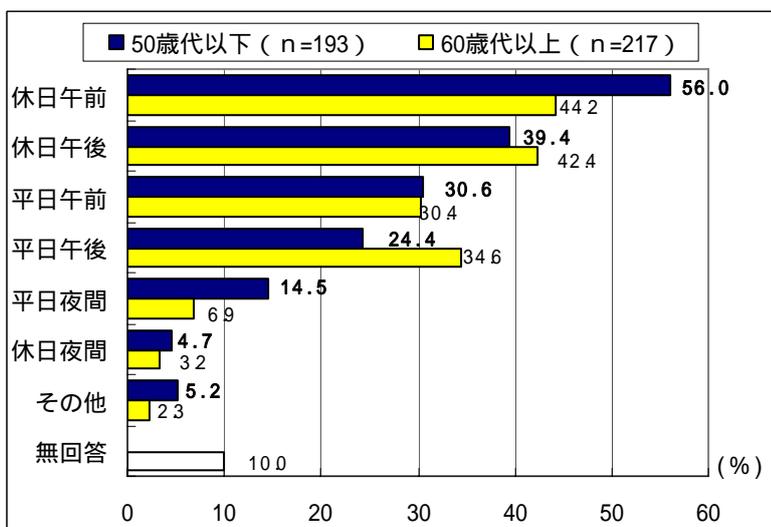


図 C 研修の適当な日程の世代比較

研修の適当な日程の世代比較(図C)について、「50歳以下」では「休日午前」が56.0%で最も多く、この世代にとって最適な研修の日程であることがわかる。また、「休日午後」は39.4%であった。「60歳以上」では、「休日午前」が44.2%であり、「休日午後」が42.4%であり、差は見られなかった。さらに、「60歳以上」では「平日午後」も34.6%と比較的高かった。

(5) 研修情報の収集

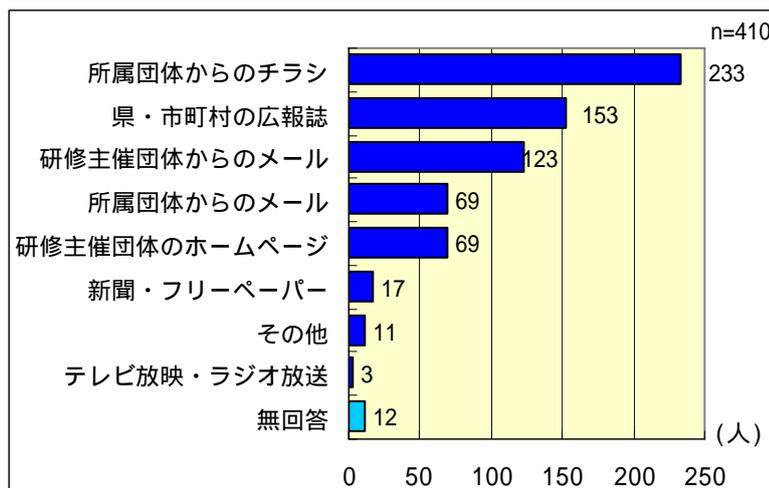
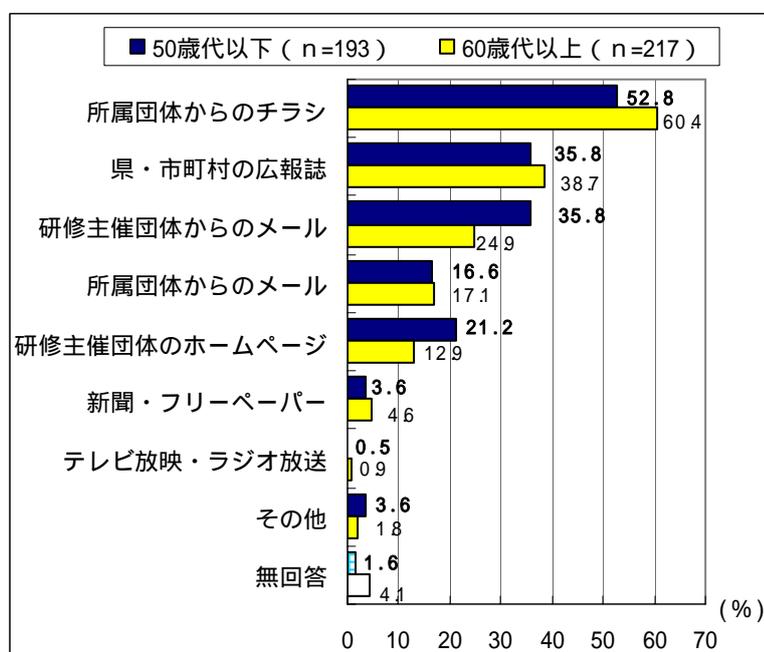


図3 - 5 研修情報の収集 (2つまでの複数回答)

研修情報の収集(図3-5)について、便利であると思う方法についてたずねたところ、総数は678であった。「所属団体からのチラシ」が233と最も多く、次いで「県・市町村からの広報誌」の153、「研修主催団体からのメール」の123であった。



図D 研修情報の収集の世代比較

研修情報の収集の世代比較(図D)について、「所属団体のチラシ」が、「50歳代以下」が52.8%、「60歳代以上」は60.4%であり両世代とともに、最も有効な研修情報の収集方法であることがわかった。

「所属団体からのチラシ」以外を見ると「50歳代以下」では、「県・市町村からの広報誌」と「研修主催団体からのメール」が35.8%と同率であった。また、「研修主催団体のホームページ」は21.2%だった。

「60歳代以上」では「県・市町村からの広報誌」が38.7%、「研修主催団体からのメール」が24.9%、「所属団体からのメール」が17.1%であった。

研修に対する考えのまとめ

研修の必要性については、約9割の回答者が「必要である」と答えている。さらに、研修会参加の理由では、自己研鑽のために研修会を必要としている回答者が多かった。

研修に参加できない理由では、日程・場所等の物理的条件が大きな要因であり、世代比較をしても「日程があわない」が最も多く、日程設定が重要な要因であることがわかる。

また、研修の適当な日程では「休日午前」「休日午後」が多く、休日の研修が参加しやすい傾向がわかる。さらに、世代比較をしてみると「50歳代以下」では、休日午前が約6割近く、休日午前が最も適当であることがわかる。一方、「60歳代以上」では、「休日午前」が最も多いが「休日午後」との差はなく、休日であれば午前・午後のどちらでもよいことがわかった。また「平日午前」が3割を超えており、「平日午前」も研修の日程として適当と考えている回答者がいることがわかる。

研修情報の収集については、特に「所属団体からのチラシ」が回答者総数の5割を超えており、所属団体を通じてチラシを配布することが有効であることがわかる。また、「県・市町村の広報誌」が回答者全体の3割を超えており、これらの公的広報誌も有効であることがわかった。「所属団体からのチラシ」「県・市町村の広報誌」「新聞フリーペーパー」といった紙媒体の広報を合計すると403である。また、電子媒体の広報である「研修主催団体からのメール」「所属団体からのメール」「研修主催団体のホームページ」を合計すると261である。紙媒体による情報収集が優位ではあるが、電子媒体による情報収集のニーズも高いことがわかった。

さらに世代比較でも、「60歳代以上」は「所属団体からのチラシ」が約6割、「50歳代以下」でも5割を超えており、両世代ともに「所属団体からのチラシ」が最も有効であることがわかる。また、「60歳代以上」では、「県・市町村からの広報誌」が約4割であり、紙媒体による情報収集が便利であると考えていることがわかった。一方、「50歳代以下」では「県・市町村からの広報誌」と「研修主催団体からのメール」が同数であり、「研修主催団体のホームページ」も少なくないことから、電子媒体による情報収集も有効であることがわかった。

4 有意義な研修

(1) 有意義だと思う実技研修

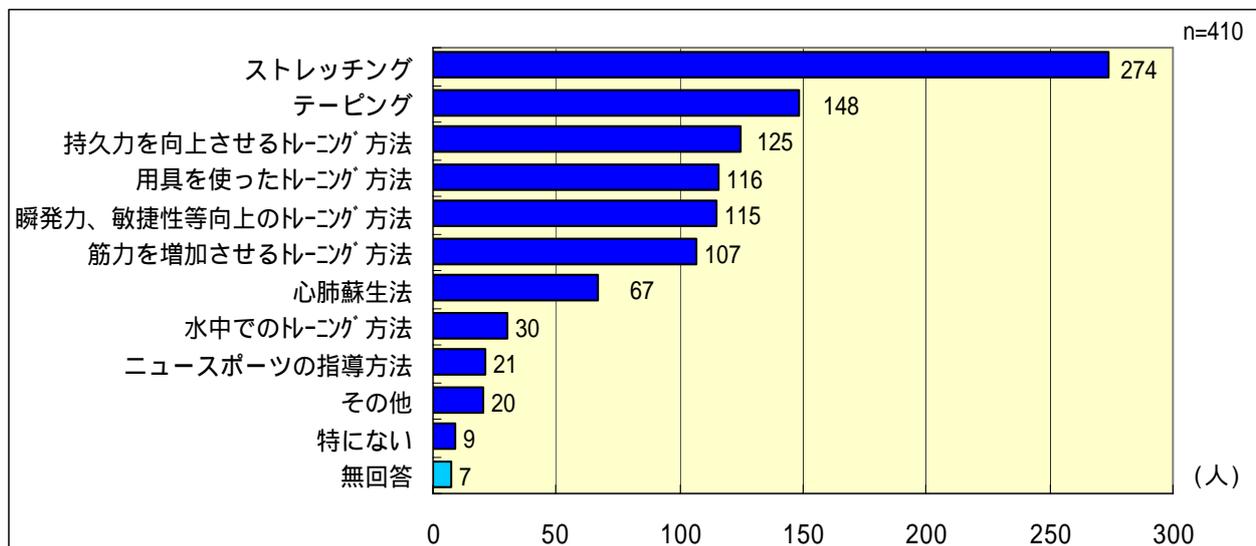


図4 - 1 有意義だと思う実技研修（3つまでの複数回答）

有意義だと思う実技研修（図4 - 1）について、具体例をあげてたずねたところ、総数は1,032であった。「ストレッチング」が274で最も多く、他の項目と比べて大変多い。次いで「テーピング」の148、「持久力を向上させるトレーニング方法」の125、「用具を使ったトレーニング方法」の116、「瞬発力・敏捷性等向上のトレーニング方法」の115、「筋力を増加させるトレーニング方法」の107と続いている。

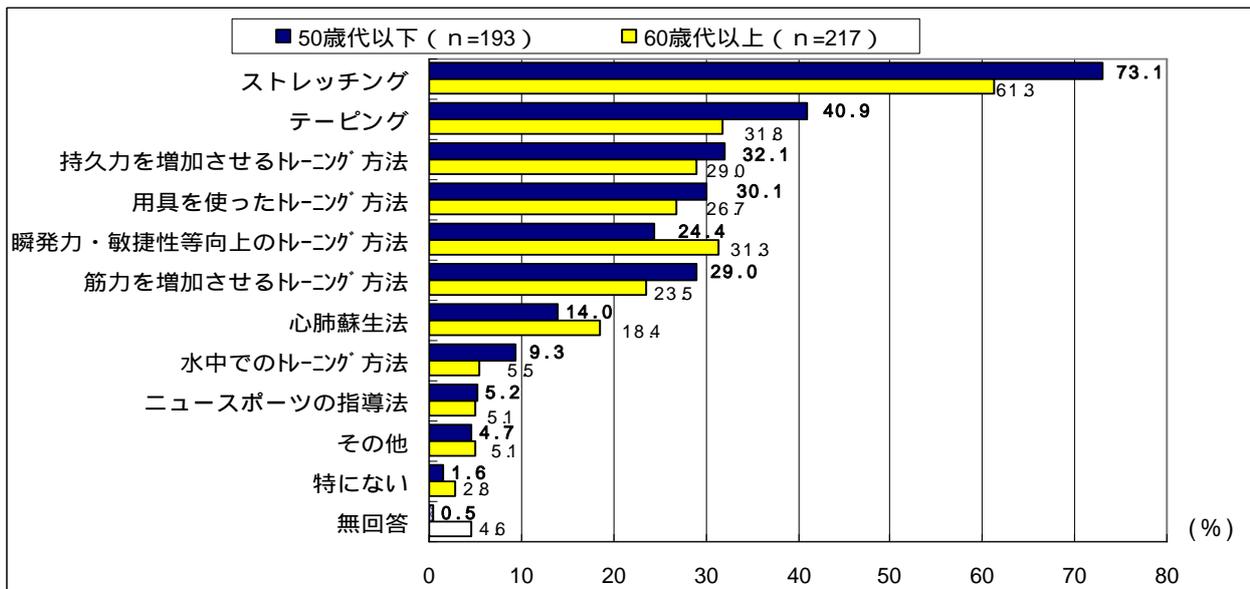


図 E 有意義だと思う実技研修の年代比較

有意義だと思う実技研修の年代比較（図 E）について、両世代を通じて「ストレッチング」が6割以上と最も多い。

「50歳代以下」では「ストレッチング」に続いて「テーピング」が40.9%と高かった。次いで、「持久力を増加させるトレーニング方法」32.1%、「用具を使ったトレーニング方法」30.1%、「筋力を増加させるトレーニング方法」29.0%であった。

「60歳代以上」では、「ストレッチング」に続いて「テーピング」の31.8%が高かった。次いで、「瞬発力・敏捷性等向上のトレーニング方法」31.3%、「持久力を増加させるトレーニング方法」29.0%、「用具を使ったトレーニング方法」26.7%であった。

(2) 有意義だと思う講義型研修

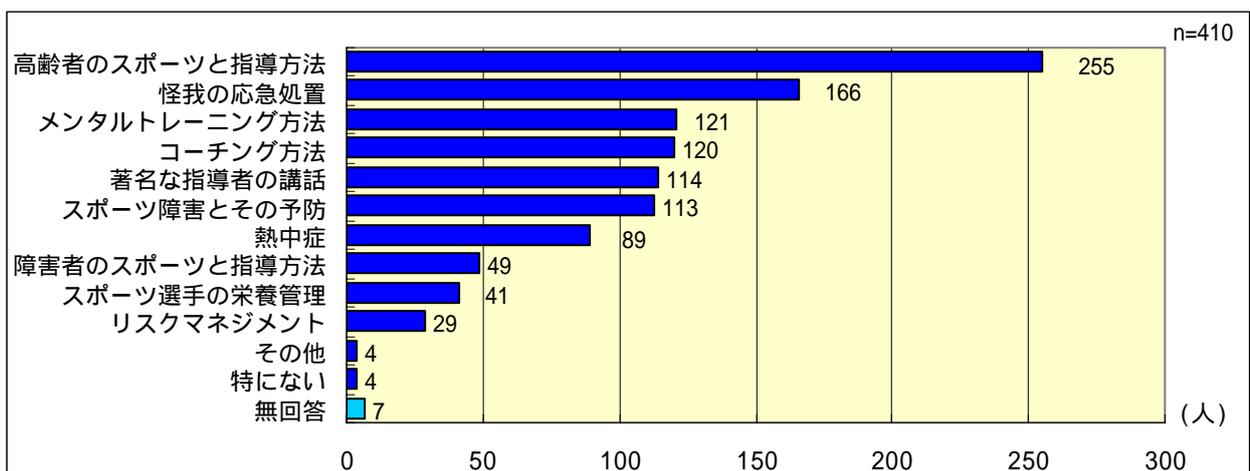
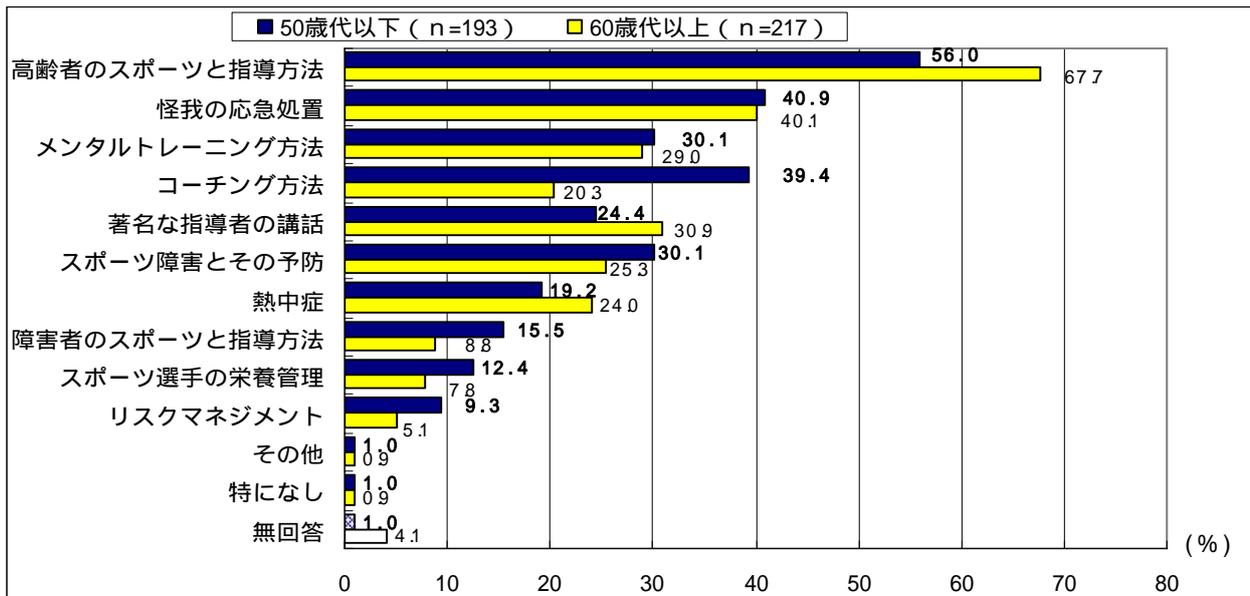


図 4 - 2 有意義だと思う講義型研修（3つまでの複数回答）

有意義だと思う講義型研修（図 4 - 2）について、具体例をあげてたずねたところ、総数は1,105であった。「高齢者のスポーツと指導方法」が255で最も多い。次いで「怪我の応急処置」の166、「メンタルトレーニング方法」の121、「コーチング方法」の120、「著名な指導者の講話」の114、「スポーツ障害とその予防」の113と続いている。



図F 有意義だと思う講義型研修の年代比較

有意義だと思う講義型研修の年代比較（図F）について、両世代を通じて「高齢者のスポーツと指導方法」が最も多く、特に「60歳代以上」は、7割に近い。

「50歳代以下」では、「高齢者のスポーツと指導方法」の56.0%に続いて「怪我の応急処置」が40.9%、「コーチング方法」が39.4%であり、「コーチング方法」の比率が高いことがわかる。その他では「メンタルトレーニング方法」30.1%、「スポーツ障害とその予防」30.1%、「著名な指導者の講話」の24.4%と続いている。

「60歳代以上」では、「高齢者のスポーツと指導方法」に続いて「怪我の応急処置」の40.1%、「著名な指導者の講話」30.9%、「メンタルトレーニング方法」29.0%、「スポーツ障害とその予防」25.3%「熱中症」24.0%「コーチング方法」20.3%と続いている。

有意義だと思う研修のまとめ

有意義だと思う研修全体では、実技型研修で「ストレッチング」が最も多く、次に「テーピング」が続いている。また、講義型研修では「怪我の応急処置」が2番目に多いことから、怪我の予防や対応に役立つ知識・技能が必要とされていることがわかる。このことを世代別にみると、「ストレッチング」「テーピング」「怪我の応急処置」では、世代による差はなく、各世代共通に必要としている研修であることがわかる。

有意義だと思う実技型研修では、上位2項目の「ストレッチング」「テーピング」は世代による差はなかった。それに続く4項目について、全体での回答数に差が見られないが、「瞬発力・敏捷性等向上のトレーニング方法」では「50歳代以下」の数値が低く、「筋力を増加させるトレーニング方法」では「60歳代以下」の数値が低い。世代によって必要としている筋力トレーニング方法が異なることが示唆されていると考えられるが、介護予防や怪我防止の観点から考えると、特に「60歳代以上」では筋力を増加させるトレーニングが必要になると考える。

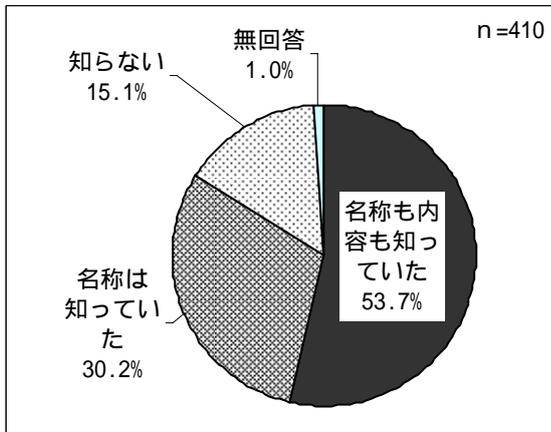
有意義だと思う講義型研修では、「高齢者のスポーツと指導方法」が最も多く、次に「怪我の応急処置」が続いており、この傾向に世代による差は見られなかった。

「高齢者のスポーツ指導方法」についてはP8「スポーツ指導の対象」で高齢者を指導していると回答した数を大きく上回ることから、現在「高齢者」を指導している指導者以外の回答者も、これからのスポーツ指導には、高齢者に対する適切な運動指導が必要であると考えていることが伺える。その他の項目については、「50歳代以下」では、「コーチング方法」が「怪我の応急処置」とほぼ並ぶ数値であり、「著名な指導者の講話」が低い結果であった。「60歳代以上」では、「コー

チング方法」が低い等、世代によって有意義だと思いう講義型研修の傾向に差があることがわかった。

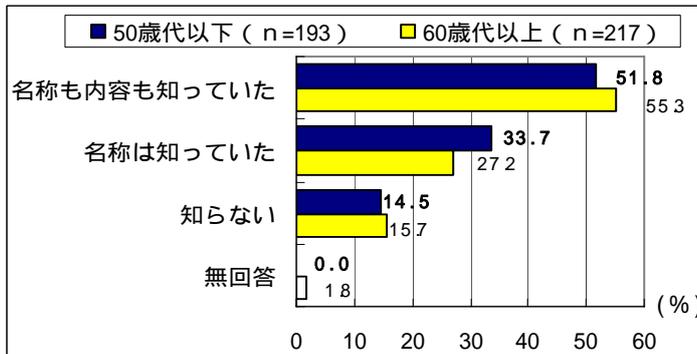
5 総合型地域スポーツクラブについて

(1) 総合型地域スポーツクラブの認知度



総合型地域スポーツクラブの認知度（図5-1）については、「名称も内容も知っていた」が53.7%、「名称は知っていた」が30.2%であり、2つを合計すると80%以上が何らかの形で総合型地域スポーツクラブを知っていることがわかった。「知らない」は15.1%であった。

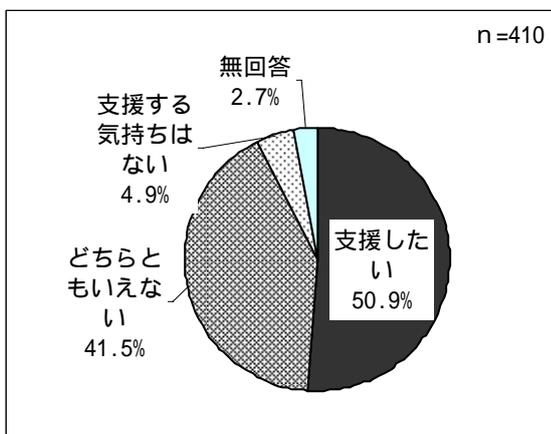
図5-1 総合型地域スポーツクラブの認知度



総合型地域スポーツクラブの認知度の世代比較（図G）については、「内容も名称も知っていた」では、「50歳代以下」51.8%であり、「60歳代以上」は55.3%であった。「名称は知っていた」では、「50歳代以下」が33.7%であり、「60歳代以下」が27.2%であり、世代による差は見られなかった。

図G 総合型地域スポーツクラブの認知度の世代比較

(2) 総合型地域スポーツクラブを支援する気持ち



総合型地域スポーツクラブを支援する気持ち（図5-2）については、「支援したい」が50.9%であった。「どちらともいえない」が41.5%であった。

図5-2 総合型地域スポーツクラブを支援する気持ち

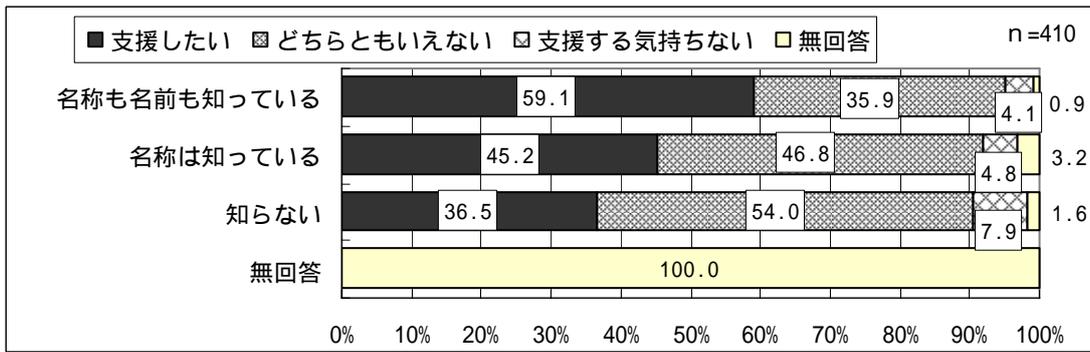
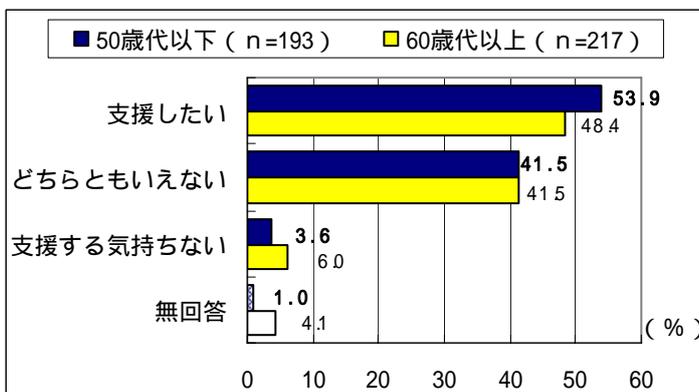


図 H 総合型地域スポーツクラブの認知度と総合型地域スポーツクラブを支援する気持ちの関係

総合型地域スポーツクラブの認知度と総合型地域スポーツクラブを支援する気持ちの関係を見たところ（図 H）「名称も名前も知っている」と答えた回答者の59.1%、「名称は知っている」と答えた回答者の45.2%、「知らない」と答えた回答者の36.5%が「支援したい」答えている。総合型地域スポーツクラブの認知度が高まるにつれ、総合型地域スポーツクラブを支援する気持ちが高いことが分かった。



総合型地域スポーツクラブを支援する気持ちの年代比較（図 I）について、「支援したい」では「50歳以下」53.9%であり、「60歳以上」は48.4%であった。「どちらともいえない」では、「50歳以下」41.5%であり、「60歳以上」も41.5%であったことから、世代による差は見られなかった。

図 I 総合型地域スポーツクラブを支援する気持ちの年代比較

（3）総合型地域スポーツクラブについて有意義だと思う研修

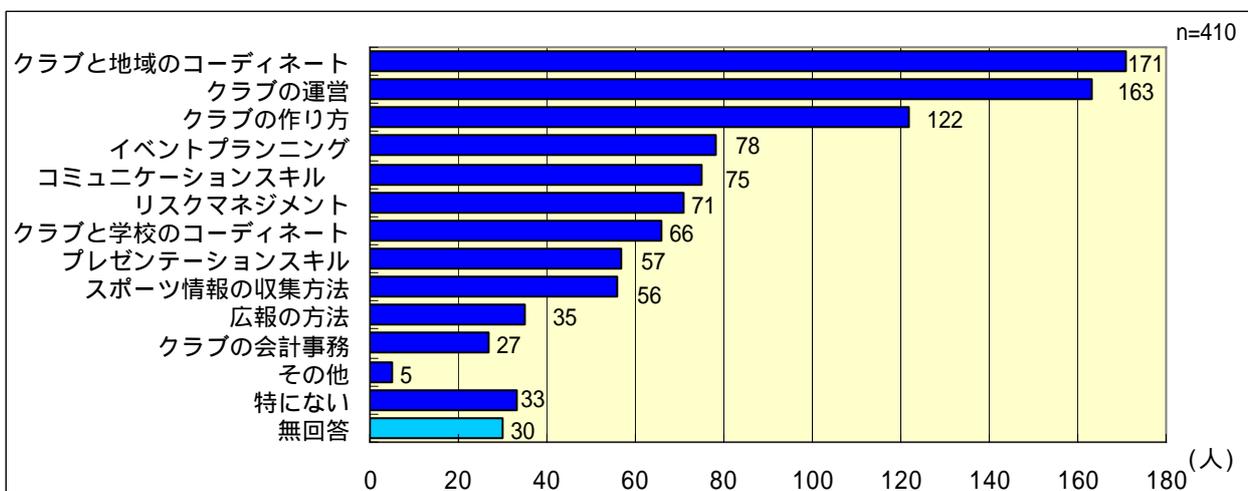
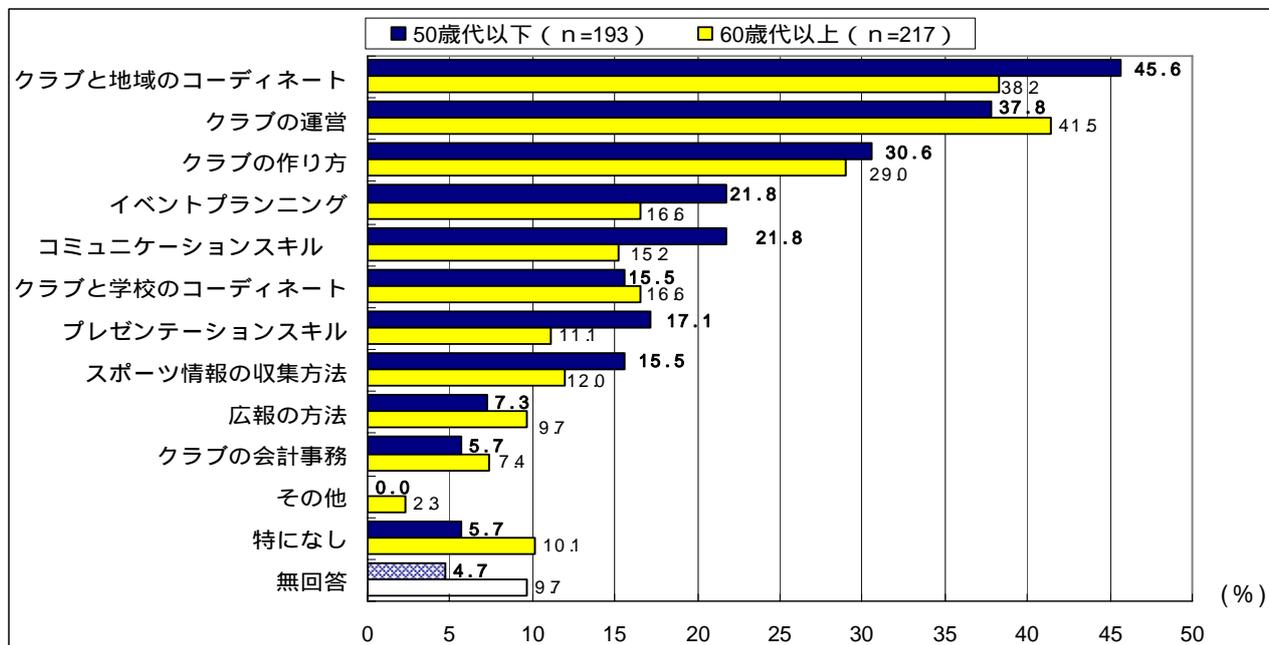


図 5 - 3 総合型地域スポーツクラブについて有意義だと思う研修（3つまでの複数回答）

総合型地域スポーツクラブについて有意義だと思う研修（図5-3）について、具体例をあげてたずねたところ、総数は959であった。「クラブと地域のコーディネート」が171と最も多く、次いで「クラブの運営」が163、「クラブの作り方」が122と続いている。

専門性が高いと思われる「イベントプランニング」「コミュニケーションスキル」「リスクマネジメント」などは、上記3項目と比較すると低い数値であった。



図J 有意義だと思う総合型研修の年代比較

有意義だと思う総合型研修の年代比較（図J）について、「50歳代以下」では、「クラブと地域のコーディネート」が45.6%であり、高い数値である。これに続くのが「クラブの運営」の37.8%であった。「60歳代以上」では、「クラブの運営」が41.5%と最も高く、「クラブと地域のコーディネート」が38.2%であった。

また、「イベントプランニング」「コミュニケーションスキル」「プレゼンテーションスキル」など専門性が高いと思われる研修の数値は低いながらも、「50歳代以下」の方が「60歳以上」に比べて数値は高い。

総合型地域スポーツクラブのまとめ

総合型地域スポーツクラブの認知度は、「名称も内容も知っていた」が53.7%であり、スポーツ指導者ということを考えると、高い数値とは言えず、総合型地域スポーツクラブ広報を工夫する必要がある。

また、「総合型地域スポーツクラブを支援する気持ち」では「支援したい」が50.9%であり、「総合型地域スポーツクラブの認知度」での「名称も内容も知っていた」の53.7%と同様の数であるが、両者の関連を見たところ、総合型地域スポーツクラブの認知度が進むと、支援する気持ちが高まる傾向がわかった。また、「知らない」と答えた回答者の36.5%が「支援したい」と答えていることから、アンケートの総合型地域スポーツクラブについての内容から、「支援したい」と回答したことが推測される。

総合型地域スポーツクラブについて有意義だと思う研修について、回答数が多かったのは「クラブと地域のコーディネート」であり、回答者は総合型地域スポーツクラブと地域との連携方法を最も必要としていることが分かるが、「クラブと学校とのコーディネート」はあまり多くなく、今後の施設活用を考えた時に広報や研修等が必要であると思われる。

【まとめ】

1 研修に関する考えについて

- (1) 研修の必要性について、回答者の約9割が研修は必要であると考えている。そして、約8割が過去3年間の研修参加理由（複数回答2）を自己研鑽のためと答えており、研修の重要性がはっきりした。
- (2) 自己研鑽のための研修の重要性は認識されているが、研修に参加できない理由に「日程が合わない」「場所が遠い」等の物理的条件が多く、研修の日時や場所等の設定に工夫が必要である。背景には、スポーツ指導の回数が多いため、研修参加の時間が確保できないことが考えられる。
さらに日程設定としては、最も休日が適当であり、年代で比較した場合、「60歳代以上」の世代では「平日午後」「平日午前」の日程も適当と考える回答者が各々3割以上いることがわかった。
- (3) 研修情報の収集については、回答数が最も多い項目が「所属団体からのチラシ」であり、次が「県・市町村からの広報誌」である。紙媒体による広報が有効であることがわかった。このことから、公的広報誌以外にタウン誌や口コミ情報誌等への掲載も活用する必要があると思われる。また、「所属団体からのチラシ」の配付を希望している回答者が多く、所属団体を通じての広報が有効であることがわかった。また、年代で比較した場合、「50歳代以下」では電子媒体による情報発信の希望が多く、今後電子媒体による広報方法をより工夫して行う必要がある。

2 有意義な研修について

- (1) 有意義だと思う研修については、実技・講義型を総合した場合、「ストレッチング」「テーピング」「怪我の応急処置」等の怪我の予防や対処に関する研修が、世代による差がなく有意義だと考えている。
- (2) 有意義だと思う実技研修については、「持久力を向上させるトレーニング方法」「用具を使ったトレーニング方法」「筋力を増加させるトレーニング方法」「瞬発力・敏捷性等向上のトレーニング方法」のどれもが同程度の回答数であり、有意義であると考えられていることがわかった。
- (3) 有意義だと思う講義型研修では回答者の年齢層が高いこともあり「高齢者のスポーツと指導方法」が最も多く、高齢者の指導者以外も、この研修を有意義だと考えていることがわかった。特に「60歳代以上」では、7割近くの回答者がこの研修を選んでおり、高齢の指導者が高齢者に指導する場面で、必要とする知識があることがわかった。「高齢者のスポーツと指導方法」と「怪我の応急処置」に続く研修では、世代による傾向の差が見られ、有意義だと思う講義型研修に差があることが示唆されている。

3 総合型地域スポーツクラブについて

- (1) 総合型地域スポーツクラブ認知度は、「名称も名前も知っていた」が5割を越えていたが、スポーツ指導者ということを考えて、高い値とは言えず、総合型地域スポーツクラブの情報を得ていないことがわかった。
- (2) 総合型地域スポーツクラブの認知度と、総合型地域スポーツクラブを支援する気持ちのデータの関連性を見たところ、総合型地域スポーツクラブの認知度が進むと、支援する気持ちが高まる傾向があることから、総合型地域スポーツクラブに関する広報を一層充実させることで、クラブの支援者の増加が見込まれる。
- (3) 総合型地域スポーツクラブに関する研修については、5割弱の回答者が総合型地域スポーツクラブについて知らないこともあるため、「クラブと地域のコーディネート」「クラブの運営」「クラブの作り方」などクラブ設立の基礎的な内容が有意義な研修と考えられており、総合型地域スポーツクラブが施策となり7年が経過するが、今後のスポーツ振興についての初期

的段階の研修が必要であることがわかった。

【今後に向けて】

1 ライフステージに応じた指導者の研修

今後ますます進展する人口の高齢化に伴い、介護予防の観点からも運動の奨励が提唱されている。今回の調査結果から、高齢者の指導や体操を指導している指導者が多く、高齢者のスポーツ指導に関する研修のニーズが高いことがわかった。これらのことから、現在、体育センターでは、中高齢者スポーツの指導者研修を開催し好評であるが、さらに講座を増やすことや、医学的根拠に基づいた指導者研修のため医療機関などと相互に連携を取るなど、高齢者スポーツの指導者研修の工夫や充実は必須である。

また、調査結果では小学生や多世代を対象にスポーツを指導している指導者も多いことから、現在まで体育センターで開催した、怪我の予防やテーピング、指導者に求められるコミュニケーションスキルや食育に関しての研修などについて包括し、スポーツ指導の基本となるテキストを作成し、研修会へ日程的な理由で参加できない地域スポーツ指導者のために配付したい。

今後もライフステージに応じた指導のスキルアップを支援するとともに、集合型でない研修のあり方を検討したい。

2 総合型地域スポーツクラブに関する研修の充実

平成18年9月に改定された「スポーツ振興基本計画」では、生涯スポーツ社会の実現のため、総合型地域スポーツクラブの全国展開に向けて、質・量ともに一層の充実を支援することとされている。

本研究のスポーツ指導者の総合型地域スポーツクラブに対する認知度は、約5割であることから、クラブ設立等に関する基礎的内容の研修を実施することが、総合型地域スポーツクラブに対する知識や理解を深めるとともに、将来的にクラブ運営に携わることができる人材の育成にもつながる。

また、総合型地域スポーツクラブに必要なスタッフは、マネジメントスタッフ、コーチングスタッフ、メディカルコンディショニングスタッフと多岐にわたり、クラブの健全な経営・運営を継続していくためには、質の高いスポーツ指導者の活躍は不可欠である。

現在、体育センターでは「地域スポーツクラブコーディネートに関する研修会」として、クラブ等の運営に係るスポーツ指導者に必要な基礎的知識・技能や指導法などを扱う「基本講座」とクラブ経営能力を有する専門の人材を養成する「専門講座」をそれぞれ8講座開催しているが、今後もスポーツ指導者のニーズに対応した講座を開催するとともに、クラブ運営に必要な様々な講座の充実を推進していくことが重要である。

3 体育センター機能の充実と推進

スポーツ指導者が、研修に参加できない要因に日程や場所などの物理的なことがあることから、スポーツ指導者が活動している地域での研修の開催が対応策として考えられる。

現在、体育センターでは、スポーツ指導者研修を事業体系に位置づけ、研修指導室、スポーツ科学研究室、生涯スポーツ推進室、スポーツ情報室の各室が指導者の指導力向上に係る事業を展開している。その4室が横断的に取り組む事業で、所員が研修会講師として出向いて指導する「スポーツ指導者等支援事業」があるが、それらを活用して、今後所外研修を積極的に開催していくことが望ましい。そのためにも、日常的に指導者を支援する立場の体育センターは、最新で正確な指導方法の情報収集や所員一人ひとりの自己研鑽は、スポーツ指導者の指導力を高めるために不可避であり、責務である。

また、生涯スポーツ推進室の取り組みとしては、各種研修会の開催はもとより、県民のスポーツの機会を増やし、スポーツの裾野を広げスポーツ実施者を増やすことが、スポーツ指導者の研鑽につながる。スポーツ実施者がそれぞれの活動でよりよい指導者を求め、また、実施者

のレベルが上がれば、スポーツ指導者も指導力の向上が必要になるというサイクルが考えられる。いずれにしても、体育センターは、あらゆる側面からスポーツ指導者を支援する方策を推し進め、ひいては県民スポーツ実施率の向上と、心と体の健康づくりに貢献しなくてはならないと考える。

【参考文献】

- 1) スポーツ振興基本計画(文部省, 2000)
- 2) 21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)(厚生省, 2000)
- 3) アクティブかながわ・スポーツビジョン(神奈川県・神奈川県教育委員会, 2004)
- 4) 青少年のスポーツライフ・データ(笹川スポーツ財団, 2006)
- 5) 県民の体力・スポーツに関する調査結果報告書(神奈川県・神奈川県立体育センター, 2007)
- 6) これからのスポーツ指導者育成事業の推進方策(日本体育協会, 2007)

スポーツ指導者の研修に関する意識・実態調査票

平成19年7月1日現在でお答えください。

次の質問にお答えください回答は回答用紙にご記入願います。

1 はじめに、あなたご自身についておたずねします。

(1) あなたの居住地について、あてはまる番号を1つ選んでください。

- | | |
|-----------|----------|
| 1 横浜市 | 5 湘南地域 |
| 2 川崎市 | 6 足柄上地域 |
| 3 横須賀三浦地域 | 7 西湘地域 |
| 4 県央地域 | 8 県北地域 |
| | 9 その他の地域 |

(2) あなたの性別について、あてはまる番号をお書きください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

(3) あなたの年齢は、次のどれにあたりますか。

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 | 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳以上 |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------|

(4) あなたがお持ちのスポーツ指導者資格等について、あてはまる番号を全てお書きください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 神奈川県生涯スポーツリーダー | 5 日本スポーツクラブ協会認定資格 |
| 2 公認スポーツ指導者資格 | 6 健康体力づくり事業財団認定資格 |
| 3 公認審判員資格 | 7 保健体育科教員免許 |
| 4 日本レクリエーション協会認定資格 | 8 その他() |

(5) あなたは体育指導委員に任命されていますか。

- | |
|-------------|
| 1 任命されている |
| 2 以前任命されていた |
| 3 任命されていない |

(6) あなたがお持ちの日本体育協会公認スポーツ指導者資格について、あてはまる番号を全てお書きください。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 スポーツリーダー | 9 スポーツプログラマー |
| 2 指導員 | 10 フィットネストレーナー |
| 3 上級指導員 | 11 スポーツドクター |
| 4 コーチ | 12 アスレティックトレーナー |
| 5 上級コーチ | 13 アシスタントマネージャー |
| 6 教師 | 14 クラブマネージャー |
| 7 上級教師 | 15 その他() |
| 8 ジュニアスポーツ指導員 | 16 なし |

(7) あなたがお持ちになっている公認スポーツ指導者資格の種目について、あてはまる番号を全てお書きください。

- | | | | |
|---------------|----------------|-----------|------------|
| 1 陸上競技 | 2 水泳 | 3 サッカー | 4 スキー |
| 5 テニス | 6 ボート | 7 ホッケー | 8 バレーボール |
| 9 体操 | 10 バスケットボール | 11 スケート | 12 セーリング |
| 13 ウェイトリフティング | 14 ハンドボール | 15 自転車 | 16 ソフトテニス |
| 17 卓球 | 18 軟式野球 | 19 馬術 | 20 柔道 |
| 21 ソフトボール | 22 フェンシング | 23 バドミントン | 24 弓道 |
| 25 ライフル射撃 | 26 近代五種・バイアスロン | | 27 剣道 |
| 28 ラグビーフットボール | | 29 山岳 | 30 カヌー |
| 31 アーチェリー | 32 空手道 | 33 銃剣道 | 34 なぎなた |
| 35 ボウリング | 36 ゲートボール | 37 カーリング | 38 トライアスロン |
| 39 エアロビック | 40 ダンススポーツ | 41 その他() | |

(8) あなたが指導しているスポーツ種目について、主なものを3つまでお書きください。

- | | | | |
|---------------|----------------|-----------|------------|
| 1 陸上競技 | 2 水泳 | 3 サッカー | 4 スキー |
| 5 テニス | 6 ボート | 7 ホッケー | 8 バレーボール |
| 9 体操 | 10 バスケットボール | 11 スケート | 12 セーリング |
| 13 ウェイトリフティング | 14 ハンドボール | 15 自転車 | 16 ソフトテニス |
| 17 卓球 | 18 軟式野球 | 19 馬術 | 20 柔道 |
| 21 ソフトボール | 22 フェンシング | 23 バドミントン | 24 弓道 |
| 25 ライフル射撃 | 26 近代五種・バイアスロン | | 27 剣道 |
| 28 ラグビーフットボール | | 29 山岳 | 30 カヌー |
| 31 アーチェリー | 32 空手道 | 33 銃剣道 | 34 なぎなた |
| 35 ボウリング | 36 ゲートボール | 37 カーリング | 38 トライアスロン |
| 39 エアロビック | 40 ダンススポーツ | 41 ウォーキング | |
| 42 健康体操 | 43 その他() | | |

2 あなたのスポーツ指導の状況についておたずねします。

(9) スポーツ指導の頻度について、あてはまる番号を1つお書きください。

- 1 1週間に3回以上指導を行う
- 2 1週間に1～2回程度指導を行う
- 3 1ヶ月に1～2回程度指導を行う
- 4 1年間の特定の時期に集中して数回指導を行う
- 5 不定期に1年に数回指導を行う
- 6 現在は指導を行っていない —————> 3ページ 15へお進みください

(10) スポーツ指導の形態について、あてはまる番号を1つお書きください。

- 1 定期的に指導を行っているチーム、団体がある
- 2 指導依頼があった時に指導を行っている
- 3 その他()

(11) スポーツ指導対象の集団構成について、あてはまる番号を3つまでお書きください。

- | | | |
|--------|-------|-----------|
| 1 未就学児 | 5 大学生 | 9 女性 |
| 2 小学生 | 6 社会人 | 10 高齢者 |
| 3 中学生 | 7 多世代 | 11 その他() |
| 4 高校生 | 8 障害者 | |

(12) スポーツ指導を行う際の主な利用施設について、あてはまる番号を1つお書きください。

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 県立スポーツ施設 | 6 市町村立施設(公民館等) |
| 2 市町村立スポーツ施設 | 7 民間スポーツクラブ施設 |
| 3 小学校施設 | 8 企業のスポーツ施設 |
| 4 中学校施設 | 9 その他() |
| 5 高等学校施設 | |

(13) スポーツ指導の内容について、あてはまる番号を3つまでお書きください。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 県主催のスポーツ教室 | 7 指導者資格認定講習会 |
| 2 市町村主催のスポーツ教室 | 8 指導者対象研修会 |
| 3 健康づくり教室 | 9 競技大会・強化練習会 |
| 4 自分の所属団体でのスポーツ教室 | 10 学校運動部活動 |
| 5 地域クラブ・サークル活動 | 11 その他() |
| 6 スポーツ普及の講習会 | |

(14) あなたの今後のスポーツ指導の回数について、あてはまる番号を1つをお書きください。

- 1 今よりも、スポーツ指導の回数を増やしたい
- 2 今と同程度のスポーツ指導を続けたい
- 3 今よりも、スポーツ指導の回数を減らしたい

3 スポーツ指導者の研修について、あなたの御意見をお聞きします。

(15) スポーツ指導者として研修についてどう考えますか。

- 1 研修は必要である
- 2 どちらともいえない
- 3 研修は必要ない

(16) 過去3年間(平成16年4月から現在まで)に受けた研修の動機について、あてはまる番号を2つまでお書きください。

- | | |
|----------------|-------------|
| 1 自己研鑽のため | 4 仲間に誘われたため |
| 2 資格取得・資格更新のため | 5 研修は受けていない |
| 3 所属団体に勧められたため | 6 その他() |

16副問 前問で1～4、とお答えになった方に聞きます。

受講した研修で有意義であった研修会名を、覚えている範囲で2つまで具体的にお書きください。

(17) 皆さんにお聞きします。様々な研修の機会がありますが、あなたのご都合で研修に参加しない・できない理由について当てはまる番号を2つまでお書きください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 研修の日程があわない | 5 研修の内容に魅力がない |
| 2 研修場所が遠い | 6 身近な仲間に教えてもらえる |
| 3 研修を受講する時間がない | 7 自己研修を行っている |
| 4 研修の情報が手に入りにくい | 8 その他() |

(18) あなたが研修を受ける日程について適当と思うものを2つまで選び、その番号をお書きください。

- | | | | |
|--------|--------|--------|----------|
| 1 平日午前 | 2 平日午後 | 3 平日夜間 | |
| 4 休日午前 | 5 休日午後 | 6 休日夜間 | 7 その他() |

(19) あなたが研修の情報を収集する方法について便利であると思うものを2つまで選び、その番号をお書きください。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 研修主催団体のホームページ | 5 県・市町村の広報誌 |
| 2 研修主催団体からのメール | 6 テレビ放映・ラジオ放送 |
| 3 自分の所属する団体からのチラシ | 7 新聞・フリーペーパー |
| 4 自分の所属する団体からのメール | 8 その他() |

(20) あなたが有意義だと思う研修について、次の実技を伴う研修の例から3つまで選び番号をお書きください。

- 1 筋力を増加させるトレーニング方法(ウエイトトレーニング等)の研修
- 2 持久力を向上させるトレーニング方法(エアロビクス等)の研修
- 3 瞬発力、敏捷性等を向上させるトレーニング方法の研修
- 4 用具を使ったトレーニング方法の研修(ゴムチューブ、トレーニングボール等)
- 5 水中でのトレーニング方法の研修
- 6 心肺蘇生法の研修
- 7 テーピングの研修
- 8 ストレッチングの研修
- 9 ニュースポーツの指導方法(ペタンク・ユニカール等)についての研修
- 10 その他()
- 11 特にない

(21) あなたが有意義だと思う研修について、次の講義型研修の例から3つまで選び番号をお書きください。

- 1 熱中症に対応する研修
- 2 怪我の応急処置についての研修
- 3 高齢者のスポーツと指導方法についての研修
- 4 障害者のスポーツと指導方法についての研修
- 5 スポーツ障害とその予防についての研修
- 6 スポーツ選手の栄養管理についての研修
- 7 リスクマネジメント(スポーツ事故と補償)に関する研修
- 8 メンタルトレーニング方法の研修
- 9 コーチング方法(効果的なほめ方等)の研修
- 10 著名な指導者の講和を聞き指導法を学ぶ研修
- 11 その他()
- 12 特にない

4 総合型地域スポーツクラブについてお答えください。

総合型地域スポーツクラブとは、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツを楽しむことができる社会を実現するために、その地域に住む「皆さん」が主役となって、自ら運営・管理する新しいスポーツクラブのシステムです。クラブでは、いろいろな種目を様々な人たちが、その興味・関心や競技レベルを問わずそれぞれのスタイルで楽しむことができます。

(22) 総合型地域スポーツクラブについて知っていましたか。

- 1 名称も内容も知っていた
- 2 名称は知っていた
- 3 知らない

(23) 総合型地域スポーツクラブがあなたの身近な場所で設立された場合、あなたは指導者として支援する気持ちはありますか。

- 1 支援したい
- 2 どちらともいえない
- 3 支援する気持ちはない

(24) 総合型地域スポーツクラブに関して、有意義と思う研修を下の例から3つまで選び番号をお書きください。

- 1 クラブの作り方に関する研修
- 2 クラブの運営に関する研修
- 3 クラブと地域のコーディネートに関する研修
- 4 クラブと学校のコーディネートに関する研修
- 5 クラブの会計事務に関する研修
- 6 イベントプランニングに関する研修
- 7 プレゼンテーションスキル（自分の意見を効果的に伝える方法等）の研修
- 8 コミュニケーションスキル（多数の意見をまとめていく方法等）の研修
- 9 リスクマネジメント（スポーツ事故と訴訟）に関する研修
- 10 広報の方法に関する研修
- 11 スポーツ情報の収集方法の研修
- 12 その他（ ）
- 13 特になし

(25) スポーツ指導者の研修についてご意見・ご要望がございましたらお書きください。

アンケートに御協力いただきありがとうございました。